

## わくわく集会～6年生からのメッセージ～

今日16日(木)のわくわく集会は、6年生が修学旅行で学んだことの報告会でした。修学旅行を通して学んだ平和への思いを下級生に向けて、自分たちの言葉で語ってくれました。語り部の方の体験談では、被爆者として体験された苦難の人生はもちろん、心に残った言葉として①生きていくうえで仲間がいることがいかに大切か ②けんかをしないで、相手を一人の人間として認めること、それは平和をつくることにつながる の二つを紹介してくれました。そのことから、「平和な世界をつくることは、私たちの身近にあるとわかりました。」とメッセージを伝えてくれました。

また、全員で「わたしたちにできること」として①歴史の事実を知ること ②歴史の事実学ぶこと ③平和な世界をつくること として、「わたしたちは行動します。ヒロシマ・ナガサキの悲劇を繰り返さないように行動します。」という言葉に続き、「長崎の今を築く礎となった人々の勇気と努力に学び、一生懸命に勉強し、夢と勇気をもってがんばっていきます。そしてみんなが幸せに過ごせる世の中をつくっていく大人になります。」と決意を述べてくれました。

長崎に原爆が投下されて79年の年月が経ちますが、世界からは、原爆は無くなればかりか、戦争や紛争も絶えません。今日の集会の中で、子供たちには戦争は遠い世界のどこかの出来事とは思わずに、6年生が伝えてくれたように「けんかをしないで、相手を一人の人間として認めること。」の大切さを実感し、今の自分にできることを考えて欲しいと思いました。6年生の皆さんの提言をしっかりと受け止めようと思いました。

## ノーベル平和賞に日本被団協

6年生の報告会でも紹介されていましたが、日本被団協＝日本原水爆被害者団体協議会が2024年のノーベル平和賞を受賞しました。日本被団協は、広島や長崎で被爆した人たちの全国組織で、原爆投下から11年後の1956年に結成されました。ノーベル平和賞の選考委員会は、2024年の受賞者に日本被団協を選んだ理由について「日本被団協は“ヒバクシャ”として知られる広島と長崎の被爆者たちによる草の根の運動で、核兵器のない世界を実現するために努力し、核兵器が二度と使われてはならないと証言を行ってきた」と評価しています。選考委員会は「人類の歴史の中で、今こそ核兵器とは何なのかを思い起こす意義がある。核兵器は世界がこれまでに経験した中で最も破壊的な兵器だ」と強く指摘しました。

いつの日か、被爆者の方々が存在しなくなるときが来ます。これは自然の摂理です。しかし、今朝の6年生のように、日本の新しい世代は被爆者たちの経験とメッセージを継承しています。6年生のメッセージを聴きながら、長崎が最後の被爆地になるよう、核兵器のない世界の実現への思いを強くしました。

